

皆様おはようございます。

本日、ここに議員各位の御参集をお願い申し上げ、令和4年第4回江田島市議会を開会するに当たりまして、御挨拶を申し上げます。

議員各位におかれましては、平素から市政運営に対し、格別の御理解と御協力をいただきまして、深く感謝申し上げます。

また、市民の皆様には早朝から、定例会の傍聴にお越しいただき、心から御礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて、7月から猛威を振るっております新型コロナウイルス感染症の第7波も依然として油断できない状況でございます。広島県では、新規感染者数が高止まりの傾向にあることから8月12日に発出した「医療非常事態警報」を継続しております。皆様には、引き続き、医療を守り、行動制限を可能な限り避けるためにも、一人ひとりが感染リスクを抑えるための取組をしっかりと行うことをお願いいたします。

このような中にありましても、市民の皆様の御尽力により、日常を取り戻すイベントや大切な行事も行われてきており、私も3年ぶりに開催された慰霊の行事に参列することで、次代を担う子どもたちの言葉に胸を熱くするものがございました。

7月30日、江田島市原爆被害者の会と市子ども会連合会の皆さんにより開催されました「原爆犠牲者慰霊祭」では、子ども会を代表して、切串小学校6年の丸子暖仁さんと森中洋次郎さんのお二人が、

「過去にあった原爆被害について、正しく理解し、伝えていくことが平和な未来をつくることにつながる、

この町から世界に、たくさんの笑顔があふれることを願い、ともに支え合い、ともに思いやり、ともに強く生きること。」

このことを、誓いの言葉として述べてくれました。

さらに、8月18日、市主催行事であります「戦没者追悼式」では、中学校代表として、大柿中学校3年の大村一之真さんが、

「『ヒロシマ』で起こったことをここ「江田島」から全国・世界へ発信し、語り継いでいくことが私たち若い世代の使命である、

そして、戦争で奪われた方の命とその遺族の皆様の思いや願いを正しく知り、

感じ、伝え、どのように生きるかを繰り返し考え、笑顔で生活し続けること、それが平和な世界を実現することになる、

日々生きていることに感謝しながら、平和な世界になるよう、願い行動していくこと」を力強く誓ってくれました。

8月、夏の季節は、私たち、広島に生まれ育った人間にとって、日本に生まれ育った全ての人にとって、8月6日、9日、15日と、忘れてはならない慰霊の日、平和への誓いを、より強くする季節でございます。

今を生きる私たちが、慰霊の営みを、平和への祈りを絶やすことなく、子どもたちの誓いの言葉とともに、平和首長会議の活動や核実験に対する抗議など、世界に発信し続けること、そのことの意義をしっかりと胸に刻ませていただきました。

私は、常々、職員に対して、「私たちの使命は、市民の皆様の福祉の向上を図ること。それは、即ち、市民の皆様の喜びを増やし、悲しみを減ずることである」と繰り返し、繰り返し、伝え続けております。

そして、子どもたちの笑顔を守ることは、私たち、大人の使命であります。

市民の皆様の日々の暮らしの喜び、小さな幸せの積み重ねを大切にすること、このことが、子どもたちが笑顔で夢を語ることのできるまちの実現につながると信じております。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、今後も予断を許しません。

これからは、台風シーズンを迎え、市民の皆様の安全・安心な生活を守る取組は、細心の注意が必要となってまいります。引き続き、市民の皆様の生活に寄り添い、求められる施策の実現に尽力してまいります。

議員各位の一層の御支援と御協力をお願いいたします。

さて、今議会では、農地整備事業に関連する条例案や新型コロナウイルス感染症対策のための市民の皆様、事業者の皆様への支援策に関する補正予算につきまして御審議をお願いすることといたしております。

何とぞ十分な御審議をいただき、議決を賜りますようお願いを申し上げます。

6月開会の定例会以後の市政の主な事柄につきましては、市政報告書のとおりでございます。よろしくお願いいたします。

以上で、報告を終わらせていただきます。